

**「ぶんぶんひろば」における授業の実践
「演奏活動Ⅰ・Ⅱ」
(子どものための音楽会)**

1. ねらい

2011年度からスタートした「子どものための音楽会」は8年目を迎え、ぶんぶんひろばの活動として定着している。この音楽会は広島文化学園大学学芸学部音楽学科2年次に開講している「演奏活動Ⅰ」(前期:選択科目)、「演奏活動Ⅱ」(後期:選択科目)の実践学習の一環として開催しており、2019年度は月に1回から4回、木曜日の11時30分から12時の30分間、子ども・子育て支援研究センターぶんぶんひろばにて実施した。

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」は、子どもを対象とした演奏会について、企画の立て方、プログラムの組み方、しゃべり方、立ち振る舞いを始め、子どもたちをひきつけるためのパフォーマンス力を磨くための科目である。さらに、子どもや保護者の演奏ニーズを把握し、そのニーズに応じた演奏会を開催できるようにすることを目標にしている。



写真1 ペープサートを使った演出

2. 活動の内容

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」の授業において、音楽会の企画を立てるところから始まり、選曲、ペープサートなどの準備を行い、演奏や演出の練習を重ね、通しリハーサルを行ったうえで本番を実施している。また、演奏会後は保護者のアンケート集計およびDVD視聴による振り返り(反転学習)を必ず行い、報告書を作成し反省点をもとに次回の音楽会を企画する。といった流れで実施している。

音楽会の約束事として、グループ毎に2・3曲

の手遊び歌を用意すること、そして子ども達が簡易楽器などを使って音楽に参加する場面を作ること条件とし、その他の曲目などについてはグループの楽器編成にあった内容と演出を自由に考えても良いとしている。また、音楽学科学生にふさわしい演奏のクオリティを維持する事を約束している。

学生らは30分のプログラムを、童謡、唱歌、クラシック、アニメソングなどの演奏ほか、手遊び歌、音楽絵本や紙芝居、ペープサート、ダンスなどの企画を考え、子ども達を飽きさせないような工夫を凝らしながら準備していく。また、ピアスなどの装飾品はつけない事、子ども達が使用した楽器はすべて一つ一つ除菌シートで拭きながら片付けることを徹底させることで、子ども達にとって必要な安全面や衛生面への配慮などについても学んでいる。

3. 2019年度実績報告

2019年度は前期12回、後期6回あわせて18回の「子どものための音楽会」を開催した。前期の履修学生は34名、後期の履修学生は16名である。前期後期ともに5名~6名のグループを組み、交互に演奏会を開催する形で実施した。前期は履修学生が多かったため、6グループを編成し5月から7月まで毎週実施する形で実践した。

表1 2019年度「子どものための音楽会」実施概要

回	実施日	楽器編成
1	5月9日(木)	金管五重奏
2	5月16日(木)	ギター、ベース、打楽器、ピアノ、ユーフォニアム
3	5月23日(木)	声楽、フルート、ホルン、トランペット、ピアノ
4	5月30日(木)	サクソフォン、トロンボーン、ヴォーカル、ピアノ、ベース
5	6月6日(木)	声楽、ヴォーカル、トランペット、ホルン、ピアノ
6	6月13日(木)	クラリネット五重奏
7	6月20日(木)	声楽、フルート、ホルン、トランペット、ピアノ
8	6月27日(木)	金管五重奏
9	7月4日(木)	クラリネット五重奏
10	7月11日(木)	サクソフォン、トロンボーン、ヴォーカル、ピアノ、ベース
11	7月18日(木)	声楽、ヴォーカル、トランペット、ホルン、ピアノ
12	7月25日(木)	ギター、ベース、打楽器、ピアノ、ユーフォニアム
13	10月24日(木)	ホルン、ユーフォニアム、ピアノ、ヴォーカル、打楽器
14	11月7日(木)	クラリネット、トランペット、ベース、ピアノ
15	11月21日(木)	サクソフォン、トロンボーン、ベース、ピアノ、声楽
16	12月5日(木)	ホルン、ユーフォニアム、ピアノ、ヴォーカル、打楽器
17	12月19日(木)	クラリネット、トランペット、ベース、ピアノ
18	1月16日(木)	サクソフォン、トロンボーン、ベース、ピアノ、声楽

(実践資料および授業記録から作成)

表1は2019年度に開催した「子どものための音楽会」の概要をまとめたものである。それぞれの

グループ毎に30分のプログラムを組み立てた。

前期と後期を続けて履修する学生が殆どではあるが、前期だけ、後期だけと半期の履修だけで終える学生も少なからず居ることから、特に後期については新規に履修する学生への配慮も考慮しながらグループ編成を検討している。



写真2 簡易打楽器を配布する学生の様子

写真2は、子どもたちに簡易打楽器を配布している学生の様子である。鈴やフルーツシェイカーを子どもたちに配布し、音楽に合わせて音を鳴らしていただくなど、参加型のプログラムを必ず取り入れるようにしている。また、子どもを対象にした音楽会は視覚的な支援が効果的であることから、キャラクターや季節に合わせたペープサート(写真1)などを用紙することで、子どもたちには視覚的にも楽しめる音楽会を目指し準備をおこなっている。



写真3 保護者と一緒に参観する見学学生の様子

音楽会はグループごとに2回ずつ音楽会を開催するが、出演しないグループに属する学生は、必

ずそれぞれのグループを1度は観察・見学するように親子と一緒に音楽会に参加し、客観的に演奏者や親子の様子を観察し、チェックシートに記入する活動を取り入れた。写真3は、親子と一緒に音楽会に参加し、チェックシートを記入しながら観察している学生の様子である。親子と同じ目線で、一緒に参加することで、楽器を配るときの配慮や、親子からのステージの見え方などを、体感を通して学ぶことができ、回を重ねるごとに、客観的に視点で演出を考えることができるようになるなどの効果があった。

4. 今後の課題と展望

保護者へのアンケート調査は①プログラムの中で良かった曲、②子どもに聴かせたい曲、③実際に家庭で子どもに聴かせている曲、④子どもの年齢と性別、⑤音楽会の参加回数、⑥自由記述(学生へのメッセージ・要望など)の6項目を設定しており、学生たちは音楽会終了ごとに集計し、次回の本番に向けての参考資料にしている。



写真4 アンケートを依頼する学生の様子

アンケートによるニーズ調査の結果を2度目の本番に生かす活動をおこなっているが、アンケートの結果に振り回されてしまい実際の子どもの様子から得た学びを活かすという点が希薄になってしまう状況も見られた。動画のチェック、実際の子どもの様子、保護者のニーズを踏まえながら、学生たちが取り組みたいプログラムのすり合わせを今後も実践させていきたい。次年度は、ニーズ調査の結果を、他のグループの結果とすり合わせる作業や、情報交換をする場を積極的に設けることで、学生たちの視野を広げる視点を持ちたい。

(文責：学芸学部音楽学科 高橋 千絵)